

## 地域の方々に支えられて充実する幼稚園の食育

小鹿野幼稚園では、地域の方にご協力をいただいて米作りや野菜の栽培を行っています。豊かな経験と知識や技術をおもちの地域の方に指導していただくことは、私たち職員にとっても勉強になります。

自然豊かなこの小鹿野町で育つ子供達に『食育』として体験させたいことは何であろうかと職員で考えた時に、地域の方から自主的に提案して下さった米作りと、これまで園内で進めてきた野菜の栽培を地域の方が快くご指導をお引き受けくださったことにより野菜の栽培を更に行うことにしました。

子供達は、お二人に親しみを込めて「田んぼの先生」「畑の先生」と呼び、苗の扱い方や植え方、世話の仕方を始め様々なことを教えていただいています。最終的には、『健康な体と食べ物の関係』にたどり着くわけですが、コミュニケーション能力も大きく育っていきます。

野菜作りに取り組む子供達に、苗が大きく成長して少しでも多くの実をつけ、子供達に感動を与えてやりたいという、強い思いと優しさが感じられる畑の先生のお姿。

子供達は、つるが伸びてきた、葉っぱが大きくなってきた、花が咲いた、実がなってきた等。生長の過程をしっかりと観察し、新鮮だからこそ触れることができるキュウリやナスのトゲ。トマトの強い香り。そして、自分で育てた野菜を収穫する喜びは何ものにも代え難いものとなり、それぞれの野菜をしっかりとかみしめ、味わいます。

栽培は、3歳児クラスから5歳児クラスまでが年齢に応じた関わり方で進めていきます。この経験を通して、野菜嫌いの子供の気持ちや行動にも変化が見られ、「これ嫌いだけれど ちょっと食べてみよう。」という姿が見られることも多くあります。

米作りは、田植え・稲刈り・脱穀を子供達は経験します。収穫した米は、塩むすびにして食べますが、米の甘みがほんのりと感じられるおいしいおむすびです。米の一粒一粒を大切にしようとする気持ちも育ちます。田んぼの先生がおっしゃった「米作りは、子育てと同じようなもの、見守り、必要な時に手をかけてやるんだ。」という言葉が心に残ります。

幼稚園の米作りの特徴は、大勢の保護者の方の協力も得て行う田植えの前の泥んこ遊びです。田んぼの中を思い切り走ったり、ジャンプしたり、這ったり。にゆるにゆるとした独特の感覚の田んぼで遊ぶことです。普段では味わうことのできないダイナミックな遊びです。

子供達は、園内だけでは経験できない貴重な体験を重ねて成長していきます。今回は、地域の皆さんにご協力いただけて進めている食育の取組の一端を紹介させていただきました。

食育に限らず、地域の皆様に色々なかたちでかかわっていただけていることに感謝しております。

園長 石川 久子

---